

# 震災乗り越え 双子大空へ

## 崇城大卒業 ともに航空会社内定

熊本地震で被災した崇城大（熊本市西区）で航空パイロット技術を学んだ双子の安達航大さん（22）と弟の雄大さん（22）が、パイロット訓練生として、それぞれ全日空と日本航空に就職する。飛行訓練の中断などの困難を乗り越えた2人は20日、卒業式に臨み、「パイロットになり、復興した熊本の空を飛びたい」と意気込みを語った。

（森永健太）



小型飛行機の前で飛躍を誓う航大さん（左）と雄大さん

### 「復興した熊本の空飛びたい」

2人は茨城県出身。5歳頃、父の勉さん（52）に連れられ、羽田空港近くの公園までドライブした。轟音を響かせながら飛ぶ航空機を見て、「あの大きな航空機を操縦したい」とパイロットを夢見るようになった。

高校時代に通ったパイロット養成所と提携していた崇城大工学部宇宙航空システム工学科に2015年に入学した。熊本市のアパートで暮らしていたが、翌年に地震で被災し、直後にパジャマ姿のまま帰省した。

授業は熊本市内のキャンパスで約1か月後に再開した。夏からは空港キャンパス（菊陽町）での授業も始まったが、講義棟は天井板が落下し、窓ガラスが割れるなどして使えなかった。

このため飛行機の格納庫内の部屋で授業を受けたが、滑走路のそばにあり、騒音で集中できない日々が続いた。飛行訓練の開始は約

3か月遅れた。

小型飛行機での飛行訓練は週5回程度行われた。至る所に広がるブルーシートや立ち並ぶ仮設住宅……。

上空から見る被災地の景色に胸を痛めた。訓練を重ねるにつれ、ブルーシートが少しずつなくなるのを見ながら、復興を肌で感じた。

今年2月、2人はそろってパイロット訓練生に内定。4月から航空機の操縦士の研修を受ける。航大さんは「被災した時も2人で励まし合ってきた。これからがスタート」、雄大さんは「兄がいたから、あきらめずに頑張れた。いつか、自分

が操縦する飛行機で、熊本の人たちに空の旅を楽しんでほしい」と話している。